

Determinants of coronary artery calcification in maintenance hemodialysis patients

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2015-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西澤, 欣子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001929

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2353 号

Determinants of coronary artery calcification in maintenance hemodialysis patients

(維持血液透析患者における冠動脈石灰化の規定因子)

西澤 欣子 (にしざわ よしこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、維持血液透析患者における冠動脈石灰化スコア (CACs) を評価し、関連因子を検討したものである。冠動脈石灰化は慢性腎不全患者、特に透析患者ではよくみられ、心血管系合併症からの死亡増加を予測する重要な所見である。いくつかの報告では慢性腎不全患者の過剰な血管石灰化には、従来の危険因子 (すなわち年齢、喫煙、糖尿病、高血圧、脂質異常症) と尿毒症に関連した新たな危険因子 (例えば、高リン血症、高カルシウム血症、高カルシウム・リン積、副甲状腺機能亢進症、酸化ストレス、全身的な炎症、蛋白-エネルギー消耗)、薬剤 (例えば、炭酸カルシウム、活性型ビタミンD3) が相互に関与するとされている。しかし、これらの従来の危険因子、新たな危険因子、薬剤、特に活性型ビタミンDの透析患者の血管石灰化への影響については議論のあるところであり、ビタミンD3の血管石灰化防御作用も報告されている。今回、207例の維持血液透析患者を対象とし、MDCTによるAgatstonスコアを用いたCACsと各種因子を検討した。冠動脈石灰化は192例の患者 (92.8%) で観察され、重回帰分析により維持血液透析患者のCACsに年齢 ($p < 0.001$)、透析歴 ($p < 0.001$)、糖尿病 ($p < 0.01$) が有意な危険因子であり、活性型ビタミンD3投与 ($p < 0.001$) のみが有意な防御因子であることが示された。活性型ビタミンD3投与患者では、非投与患者に比しCACsは有意に低かった (1349.6 ± 1635.0 対 2475.6 ± 2646.6 HU、 $p < 0.05$)。結論として維持透析患者における冠動脈石灰化に対し高年齢、長い透析歴、糖尿病は危険因子であり、活性型ビタミンD3投与は防御因子であることを明らかにした臨床的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。